

2013年第1回ART会議が3月29日(金)にツインリンクもてぎ・コントロールタワー1階ブリーフィングルームで、午後5時から行われました。

今回の会議は一般社団法人ARTとしての『定時社員総会』として行われ、議案書が参加会員(定義上:社員)に配布され、これに基づいて進められました。

総会次第は

1. 開会の辞
2. 代表理事挨拶
3. 出席状況報告
4. 議案審議

1号議案 平成24年度事業報告及び決算関係書類承認の件

2号議案 平成25年度事業計画、収支予算並びに経費決定の件

3号議案 新役員選出の件

4号議案 役員報酬の件

5号議案 定款変更の件

6号議案 その他 年間参戦チームからのスポット参戦時のピット使用

選手会との密接な連携の実現、年間登録に際してのライセンス更

新及び申請の重要性。フィジカルトレーナー採用に関して。

5. 閉会の辞

となっていました。

進行は本田重樹代表理事が行いました。

議案審議に関して1号議案、2号議案ともに承認され、3号議案に進みました。

3号議案で新役員に関し、理事から自薦で立候補を募りましたが誰もいなかったため、現理事から下記の方が推薦されました。

- ・RS-ITOH チーム監督 伊藤一成 氏
- ・伊藤レーシング チーム監督 伊藤 巧 氏
- ・7C チーム監督 坂井信人 氏

3名とも会員から賛成多数として承認され、新理事として今後、活動することになりました。

さらに現理事から、選手会が去年からうまく活動できていない状況のため、密接な連携と取るために選手会代表も理事としてARTの中に加わってもらうことが提案され、承認されました。選手会代表に関しては今後、選手会の方で検討し、決定してもらうことも併せて賛成多数で承認されました。

4号議案に関しては、現時点でまだART自体で利益が出ていない状況から、これまで同様、理事は無償で活動に協力していくということで承認されました。

5号議案に関しては本田理事から「昨年、ARTが法人として登記した際、非営利活動団体

としての認識で登録したはずだったが、手続き上の問題から営利団体としての登記になっていた。これを当初の予定通り非営利団体としての登録にし、さらに併せて所在地も今までの愛知県名古屋市から東京へ変更。この2点が定款変更」という説明があり、承認されました。

6号議案に関しては

・年間登録に際してのライセンス更新と申請の重要性に対する認識が甘い会員が多く、今年の登録時には当初の締め切りに多数のチームが未登録状態であったという状況が理事から報告されました。今後、このようなことが続くと年間エントリー制度が廃止され、以前のように毎回エントリー用紙を施設に送付する手間をかけなければならなくなることから、ライセンスの更新と登録に関してはしっかりとその重要性を認識してほしい、という話がありました。

また今年から駐車パスの形状を変更し、バックミラーに下げる利便性の高いものとなったことが説明されました。バックミラーに下げられる形状になったので、基本的にはそこに下げ、当然のことながら指定場所に駐車するように、という説明がされました。

フィジカルトレーナーの採用に関しては、選手側からの要望で、「現状で医務室は施設毎の対応で、シリーズ通して管理しているドクターはいない。そのために、どこかの施設で転倒し、負傷して次のレースに向かう際、そのケガの状況を医学的に管理する人間がいないのはライダーとして不安。そのため、トレーナーという立場ではあるが、そうした状況を管理し、ドクターに状況を説明できるようなトレーナーをARTとして持てないか。さらにトレーナーがシリーズ通していてくれば、普段のトレーニング、身体のケアなどに関するアドバイスも受けられることから、選手として現状より安心してレースに臨むことができる。そのために、ARTとしてトレーナーをテストケースとして一人、同行させることはできないか」という内容であることが、提案した会員から説明されました。

これに対して他の会員から「いちばんのポイントはその方がトレーナーで、医学的ケアは出来ず、基本的には医学的治療には踏む込めない、ということ。そうした立場の人間がシリーズに同行しても効果的なアドバイスはできないのではないか」という指摘がありました。また他の会員から「必要とするライダーもいるだろうし、必要としないライダーもいる。そのために、組織として集めた全体のお金を使うべきではないのではないか。必要とするもの、特にこれはライダーに関するものだから、本当に必要と選手が考えるのであれば、選手会のメンバーが一人いくらかずつ出し合い、同行してもらえばいいのではないか」という意見が出ました。

安全性という面から考えると非常に大事なことであるとの会員全体の認識から検討事項として残しておき、web会議や次回のART会議で意見があれば出してほしいということで、この件の討議は終わりました。

以上で、予定されていた審議に関する討議は終わりとなりました。

この後、会員からの意見が理事から求められ、会員から

・J-GP3 クラスに関して来年のレギュレーションが最高回転数を1万3000回転に抑えるという通達が出ているが、実際にはコストは下がらないのではないか。他の会員はどう考えているか意見を聞きたい。

という意見が出ました。これに関して他の会員から

「スタンダードが1万3500回転がリミットのため、実際に1万3000回転リミットのエンジンを作ってみないとどれくらいコストが下がるのか分からない。レギュレーションが実際に実施されるのであれば今季途中で1万3000回転リミットのエンジンを作っても実際に走らせる予定。でもコストは下がらないのではないか」

「スタンダードが1万3500回転なのだから、それをさらに下げる必要はないのではないか。メーカーがコストも考えた結果として設定されたのが1万3500回転なのだから、それで使えばいい」

「実際にリミット回転数が1万3000回転で使っているのか、1万3500回転で使っているのか計ることは出来ない。それはフューエルポンプの燃圧も同じ。コストをかけたくない人はかけなければいいし、かけたい人はかければいい。それがレースではないか。世界基準でレースをしていかないと、どんどん日本のレースは世界において行かれてしまう。世界レベルでレースをすべきで、ましてや、測定できないような意味のないルールを作って縛るのはナンセンス」

という意見が出ました。

そこでARTとして、J-GP3クラスの来季実施が予定されている『最高回転数1万3000回転設定』のレギュレーションに関して見直しを前提に検討していくこととなりました。

また他の会員から

・地方選手権のライダーが増えていない。この現状を変えるため、出やすくするにはどうしたらいいか考えるべき

という意見が出され、これに関しても各自、意見が出せるよう持ち帰ることとなりました。

以上で平成25年第1回定時社員総会が終了となりました。

この後、第6戦 SUGO 大会で行われるセミ耐久のレギュレーションに関する説明がJSB1000 エントラント向けに行われました。